高温・低温環境を起因物（小）とする死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	業種 (小)	事故の 型	労働 者規 模
2017	1	0～1	揚生産時、釜で湯を沸かし湯通しをするが、生産を早める為に他者が湯を沸かして釜に湯をためたままにしておいたが、生産担当者への引き継ぎを忘れた為に生産担当者が内部を確認するため蓋を開けたところ、蓋よりも多く湯が入ったため、下部より流出した湯で両足大腿部を火傷した。	30	10109	11	100 ～ 299
2017	1	13～ 14	当社パスタ室で、麺茹で槽の塩分値を決定する時に、槽からボールで、お湯を採取した際、槽のお湯が突沸上昇し腕に掛り、右前腕内側に熱傷を負った。	19	10109	11	500 ～ 999
2017	1	17～ 18	集合住宅共有通路（床面凍結状態）にて、ガス給湯器本体内部からの水漏れ確認と修理作業時、ガス給湯器から漏れた水が通路床面を凍結させた環境で、床面が凍結により滑りやすい状態で、滑って腰や肩を打ってしまった。	55	11602	2	10～ 29
2017	1	12～ 13	店舗キッチンでチャーハン用の鉄板を補充する作業中に、体勢を崩し鉄板を温めるオーブンに誤って手をついてしまい、火傷を負った。	15	140201	11	—
2017	1	12～ 13	配達用バイクで走行中、道路に積もった雪（深さ10センチ程度）に前タイヤが滑り、バランスを崩したため左側へ転倒し、はずみで右側へ飛ばされ右肘を負傷した。	44	110101	17	100 ～ 299
2017	1	8～9	納品ケースを外に出しに行ったとき、凍結した駐車場で滑り、転倒して手をつき右手首を負傷した。	53	140201	2	—

2017	1	8~9	出社後、駐車場から社屋に行く際、路面が凍結していたため、足を滑らせて尻餅をつく状態で転倒し負傷した。	53	80401	2	50~ 99
2017	1	6~7	4tトラックで荷物配送時、納品のため納品場所へ駐車し、荷物を降ろす際にトラック後方へ向かって歩いている時、地面が凍っていて右足が滑り、バランスを崩したため左足で支えて踏ん張ったところ、足首の上部付近を捻ってしまい負傷した。	52	40301	19	10~ 29
2017	1	5~6	東駐車場から工場までの通勤路（東斜面）が凍結していたので、融雪作業で塩カルを散布中、十分に融雪されていない斜面を降りてしまい、左足を滑らせて転倒しそうになったので、上半身を捻り受け身をとろうとした時、右足が捻じれた状態になってしまいそのまま転倒し、右足腓骨を骨折した。	56	150101	2	100 ~ 299
2017	1	3~4	朝刊配達中、お客様の敷地内のポストに朝刊を投函しようと歩いていたところ、敷地内が凍結していたため滑って転倒し、左足首を負傷した。	46	80205	2	10~ 29
2017	1	7~8	敷地内駐車場で、路面凍結のため足をすべらせ、体勢を立て直したが、すべり前のめりに倒れ、右手を地面につき負傷した。	18	10109	2	100 ~ 299
2017	1	3~4	敷地内駐車場で車をとめて店まで歩いて移動しようとした際、路面が凍結していたため滑って転倒し、右肩上腕を骨折した。	55	80209	2	50~ 99
2017	1	8~9	弊社駐車場で、社用車に向かう途中、路面が凍結していたため転倒し、左手首を負傷した。	67	170209	2	1~9
2017	1	4~5	テントより原反を運んでいる時、道が凍っていた為足を滑らせ転倒し、腰を強打し、腰椎横突起を骨折した。	40	10309	2	100 ~ 299
2017	1	8~9	本人は、2tトラックにて廃棄用トマトの搬出作業を行っていた。廃棄用トマトを搬出後、トラックの後ろあおりを外して、コンクリート舗装の上の荷台に置こうとした際、路面が凍結していた為	41	60101	2	100 ~ 299

			あおりと共に前方に転倒し、右手の甲と顎を負傷した。				
2017	1	4~5	従業員通用口入口まで出勤してきたところ、地面が凍結していたのが分からずに氷の上に乗る、滑って左手とひじをついて後ろに転倒した。朝食当番だったので出勤は早朝であった。	71	140101	2	50~ 99
2017	2	7~8	冷凍倉庫内での冷凍食品のピッキング作業が続き、冷凍物接触専用のゴム手袋を着用していたが前月下旬頃から右第4指に凍傷の症状が現れた。軽微な症状だった為、被災者本人が薬を塗って凌いでいたが、回復せず当月末頃に病院を受診するよう指示されたが、通常業務に支障がないと判断し、会社が休みの翌月初めに受診した。	32	170209	11	—
2017	2	18~19	厨房において、玉子焼きを焼く為フライパンを温めていたところ、火が引火してしまい、手で払ったところ、フライパンの油が右手にかかり負傷したものである。当日は応援のため、駅に出勤していたものである。	39	140201	11	10~ 29
2017	2	7~8	勤務先の業務でバスを運転し、駐車場に到着した後、駐車場からホテルへかばんを両手に持ち、徒歩で向かっている際に前日雨が降り凍結し、当日積雪により路面の状況が分かりにくい中で、凍結した路面に足を滑らせ転倒した。その際に右手中手骨を骨折した。	39	40202	2	—
2017	3	10~11	本社工場内にある冷凍庫（庫内の温度マイナス20度前後）内の冷凍品（肉・タレ等）を片付け作業中（冷凍庫内と外を行ったり来たりしていた）、体調不良を感じ休憩をとった。そのあと体の冷えを緩和しようと外（外気温9.7度）に向かう途中で転倒し、外に出てもう一度転倒し、その際に額を打ち出血した。	66	10109	11	30~ 49
2017	4	15~ 16	厚生棟のトイレ前の手洗い場で、トイレ休憩後、熱中症をおこし、転倒しコンクリート面に頭を強倒して倒れ、くも膜下出血と診断された。	44	11509	2	500 ~ 999
			立体駐車場新築工事現場で、朝から作業しており、長袖のポロ				

2017	5	12～ 13	シャツで作業し、暑いと感じていたが特に問題なく作業を行った。昼食後、午後からの作業に備えてアラームをセットし横になっていたとき、アラームが鳴ったので起きようとしたが起きられなかった。最終的に自力で起き上がったが具合が悪く、嘔吐し、熱中症・脱水症となった。	45	30302	11	1～9
2017	5	7～8	本社工場地下2階加熱調理場にて、ザルに入れた杏を煮釜を使い熱湯にくぐらせた後、水の入った別の煮釜に移す作業をしていたところ、ザルから熱湯がこぼれて長靴に入り、左足足首から甲にかけて火傷を負った。	18	10109	11	300 ～ 499
2017	5	16～ 17	個人宅屋外にて、水栓柱の給水配管改修工事で土を横17m程掘っている最中に、吐き気と頭痛に見舞われ、その場にうずくまり動けない状態になった。	68	30110	11	1～9
2017	5	13～ 14	調理場内において、注文が入ったため、手鍋でお湯を沸かしていたところ、ガスコンロから手鍋が落下しそうになり、手で押さえたところ鍋が傾き、お湯が右手首にかかり火傷を負った。	59	140309	11	1～9
2017	5	9～ 10	施設利用者が線香に使用する為のライターを使って、ごみ箱付近で不要になった紙を燃やしたところ、火がごみ箱のごみなどに引火して、火災警報器が鳴った。報知機の音で火元が2階の奥だと分かったため、消火活動を行った際に、近くにあったシングルの掛け布団で火元を両手で包み込むように火を消そうとして火傷を負った。	65	130201	11	10～ 29
2017	5	15～ 16	造林地において間伐作業中、手足がつって自力歩行が出来なくなり熱中症の症状がでた。	28	60209	11	30～ 49
2017	5	15～ 16	造林地において間伐作業中、身体がだるくなり風通しの良い日陰で休憩していたものの改善せず、熱中症の症状と判断した。	32	60209	11	30～ 49
2017	5	9～ 10	店内厨房にある揚げ物機械の油を交換する際、廃油缶を運搬中に廃油缶を持ち上げる機器が廃油缶から外れ、右手甲から肘下まで	37	140201	11	10～ 29

			廃油がかかり火傷した。				
2017	5	9～ 10	当事業場の鰹の骨抜き作業場にて、骨抜き作業をしやすいするために熱湯をかける作業をしようと、熱湯が入ったバケツを両手（左右各1つずつ）に持って運んでいた。バケツを持ったまま、手で下に置いていた台車を押したところ、バケツが揺れてその反動で左足の長靴にお湯が入った。	20	10102	11	10～ 29
2017	6	16～ 17	歩道切り下げ工事中、その日の作業が終わるので、使用した道具や残材を片付け中に、めまいと吐き気に襲われた。発生当日の気温は34℃、直射日光の下での作業で、日陰となる場所がなかった。	68	30106	11	1～9
2017	6	11～ 12	建設工事現場における交通誘導警備業務に従事中、気分が悪くなって敷地内の壁に寄り掛かっていたが、意識を失い、前のめりに倒れて、顔面を路面にぶつけた。気象庁観測値によると、当時の気温は24.1℃、湿度は51%であった。	61	170201	11	100 ～ 299
2017	6	11～ 12	本社工場内において、キャリアカーの製造業務に従事していた際、両手足に痺れが生じ、その場で横になる。（体温計測：38.6度）水分を取らせようとしたが二口程しか飲めず、指先が冷たくなった為、救急車にて病院へ搬送した。	32	11502	11	10～ 29
2017	6	14～ 15	厨房で調理中、スチームコンベクションオーブン（熱風・蒸気を利用する調理機器）のドアを開けた際、オーブンの上に置いてあったミトンが落ちたので、右手で受け止めたところ、熱い蒸気がかかり、右手の手首から肘にかけて火傷した。	49	80209	11	1～9
2017	6	16～ 17	搬入口にて、荷物をパレットへの載せ替え作業中に、意識が朦朧として、転倒し負傷した。	39	50101	11	50～ 99
2017	6	14～ 15	構内の仕分け作業場にて、ドライアイスの入った包みを仕分けする作業中、手袋をして作業を行っていたが、何度か触れているうちに両手指の先端を負傷した。軽傷と自己判断して報告も通院もせずだったが、症状が悪化したため病院で診察を受けたとこ	54	170101	11	10～ 29

			ろ、Ⅱ度の熱傷と診断され、後日、派遣元に報告があったものである。				
2017	6	14～ 15	仕分けラインにて、ドライアイスの入った荷物を仕分けする作業中、手袋をしてドライアイスを扱っていたが、何度か触れているうちに両手指の先端を負傷した。軽傷と自己判断し、報告・通院もせずいたが、症状が悪化したため受診してたところ、Ⅱ度の熱傷と診断され、後日、当社へ事後報告があった。	54	40301	11	1000 ～ 9999
2017	6	11～ 12	工場内で鋼材の出荷検査作業を行っている時に、工場内が高温多湿の状況にあり、熱中症と思われる症状（頭痛・倦怠感）が発生した。	32	11209	11	30～ 49
2017	6	10～ 11	社内工場にて、ダイカスト鑄造機によるアルミ材鑄造作業に従事中、鑄造機に背を向けた状態で、鑄造機にセットした金型より溶けたアルミ材が飛び、これが背部に当たり、火傷を負ったものである。	59	11002	11	1～9
2017	6	13～ 14	工事中、棟上げをしていて、昼休み後に仕事を始めようとしたところ、めまい・痙攣・嘔吐などの症状が出た。	59	30202	11	1～9
2017	6	20～ 21	ロボットを使って溶接作業中に、めまいで座り込み呂律が回らなくなり、足の硬直と痙攣が始まった。	34	11203	11	100 ～ 299
2017	6	13～ 14	型メンテ場で型サン作業中、気温・温度が高かったため気分が悪くなり、歩行不能となった。	41	10805	11	50～ 99
2017	6	14～ 15	選果場において、オクラをオクラネットへ詰める作業をしていたところ、気分が悪くなり、ふらついたためその場にしゃがみ込んだ。熱中症との診断を受けた。なお、現場は暑さ対策のため、ミストシャワーを稼働させていた。	40	60101	11	50～ 99
2017	6	7～8	ホールにて朝食のラインサービスをしていた際に、具合が悪くなり受診したところ、熱中症（重症）、脱水症と診断された。前日	44	170209	11	1000 ～

			の落雷によりエアコンが故障しており、摂氏36度まで気温が上昇していた。				9999
2017	6	16~17	炎天下中、もともとあった痒所を同じ敷地内に移動し、痒所を囲う枠を作っている際に、急に気分が悪くなり嘔吐し、水分補給をしながら休憩をし、引き続き作業を継続した。その後、体調が良くなり、熱中症と診断された。	16	30201	11	10~29
2017	7	13~14	単身で出張し、屋外にて中古農機具の引取・積載・搬入作業を行っていた。気温も高く水分補給をしながら行っていたが、次第に不眠・疲労感が強まり、自宅近隣の医療機関にて熱中症と診断。高温の中での作業に加え、滞在していた寮にエアコンがなく（扇風機が一台あり）体温を下げられなかったことも原因の一つと思われる。	60	80109	11	10~29
2017	7	14~15	屋外を含む運転士技能試験に向けた訓練を行っていたところ、めまいや吐き気等、熱中症のような症状が出たため、空調の効いた電車内で休養をとった。症状が落ち着いたものの頭痛が残った。	27	40101	11	100~299
2017	7	16~17	積み込み地で車両への積み込み作業が終了したが、その時に軽い目眩がしたため、水を購入し車両の中で待機していたところ、両足が攣ってしまい動けなくなってしまった。その後全身が痙攣し始めてしまったため、本社の担当者に連絡し、救急搬送の手配をしてもらい、病院に搬送され診断（熱中症）、治療を受けたものの。	57	40301	11	30~49
2017	7	12~13	工場内において、プレス作業をしていた際バリ等が発生したため、作業を中断して機械を操作（金型を上・下型確認する必要がある）切替スイッチが任意の場所を見間違えた。金型を外した後、型を確認して問題がなかったため再び取り付ける際にハンドスイッチで金型をつけながらおろした時に左手を挟んでしまったために事故が発生した。	20	140209	11	10~29
			勤務中、不意に背後から飛びつかれ全治2週間の頸椎捻挫との診断				300

2017	7	20~21	をうける。発生時、他児童の指導をしていたために背後から来る児童に気づけなかった。	33	170209	11	~ 499
2017	7	11~12	当社派遣先冷凍倉庫内に於いてスタッフより労災申請があった。各スタッフには冷凍倉庫作業用の防寒服防寒ズボン防寒靴防寒用軍手（2枚重ね）を支給していた。就労3日目の派遣スタッフだった。作業内容は高さ15cm幅30cm長さ50cm位のプラスチック製のトレイを台車にのせ搬送する作業である。	59	170101	11	~ 499
2017	7	22~23	被災者は、構内作業にて見本帳の梱包作業を行っていた。構内全体は空調は無く、スポットクーラーの前で作業を行い、給水はいつでも可能な状況ではあった。ご本人からの報告では、以前からけいれんがあり、翌週もけいれんがあったとのこと。夜退勤し、自転車を手押し帰宅していたため1時間半後帰宅。その後、1時間程度休憩し、シャワーを浴びた後意識が遠のいた。	59	40301	11	10~ 29
2017	7	10~11	勤務マンションにて駐車場の落ち葉を清掃していた際に熱中症になり倒れ頭を地面に打った。	55	150101	90	500 ~ 999
2017	7	0~1	うどん釜の熱湯を桶に入れようとした際に、桶が割れていたため熱湯が左手にかかってしまい、火傷を負った。	32	140201	11	10~ 29
2017	7	9~10	1階と2階の間を冷房のない倉庫内で荷（製品）の上げ降ろしをしていた。被災者は作業中に急にめまいがして倒れた。周りにいた者に声をかけられ、涼しいところに導かれて休息し動けるようになった。発症日の2日前から、仕事に足がつったり、めまいがしていた。	48	11302	11	~ 499
2017	7	15~16	工場内で、トラックからドラム缶の荷卸し中に、炎天下で作業したため、熱中症となり、意識が無くなりトラックから転落した。（後ろ向きあおむけ） 天気：晴れ34度、湿度59%、屋根なし 作業：昼過ぎから開始 作業前に給水、途中も油倉庫日陰で休憩したが、熱中症になった。	43	80204	11	1~9

2017	7	11~12	当事業所に於いて、金属部品の入った箱をフォークリフト（有資格者）にて移動中、フォークリフトがオーバーヒートして止まってしまったが、次の作業でも使用したかったので、早く直そうと思いラジエーターのキャップをはずしたところ、熱湯が吹き上がり右腕の手首から肘下あたりにその熱湯がかかり（長袖を着て皮手袋をしていたが腕まくりしていたため皮膚に直接熱湯がかかった。）負傷してしまった。治療を受けた。	23	80109	11	10~ 29
2017	7	15~16	樹木の剪定作業中、暑さで体調が悪くなり、汗をかき、うずくまっていたため、日陰に移動し休憩させたが、意識が薄いまま回復しないため、現認者が救急車を呼びそのまま入院に至ったもの。	69	60101	11	1~9
2017	7	18~19	夕方の工場で積み込み工場を出て約300mの顧客様車庫へ行き、汗をかいたので顧客様の所でシャワーを借りトラックに戻り休憩していた時急に気分が悪くなり、足が痺れてきたので会社に電話をし救急車を呼んだ。	39	40301	11	30~ 49
2017	7	16~17	被災者は注湯後の湯口カップと桁間の湯浸入防止板の回収の作業をしており、午前、昼、午後と水分を補給していた。大汗をかいたが、もう少しということで作業を継続していた。夕方気分が悪くなり氷水等で処理をしたが痺れが治まらず救急搬送された。当時の職場環境はTA:42.2℃RH:36.7%WBGT:34.2℃（夜測定）であった。	40	11009	11	100 ~ 299
2017	7	12~13	被災者は取鍋補修の作業をしていた所、体調が悪くなりお昼に退社した。その後、熱中症と診断されまた、腎臓の数値が高いということで入院となった。当日の職場の環境はTA:39.5℃RH:34.2%WBGT:31.6℃（夕方測定）であった。	52	11009	11	100 ~ 299
			勤務内容は立体駐車場装置の操作及び車両誘導業務。夕方、当社へ本日勤務の被災者が倒れ救急車で病院へ運ばれたと連絡が来る。クリニックへ急行し状況を確認した所通行人の方が駐車場で				300

2017	7	16~17	倒れている被災者を発見しクリニックに連絡が入ったため、勤務していた医者と職員で院内に入れ対応していたら意識が戻った。病院にと申し入れがあったため救急車を手配したとの事。熱中症になり倒れたと思われる。	61	150101	11	~ 499
2017	7	16~17	携帯基地局内で無線機設備設置作業を行っている時被災者が軽いめまいと吐き気を訴えたため、日陰への移動を指示したが、休憩開始直後に嘔吐した。熱中症と診断された。なお、当日は高温の下での作業となるため現場作業員に水分、塩分補給については適時行うように指示していた。また被災者は、当日は主に作業の補助と見学を行っていた。	24	30301	11	10~ 29
2017	7	15~16	恒温熱水が湧出する沼での、熱水及び堆積物採取の際、唯一の通路であった足場の悪い沼地の端において、倒木の上や足場のよい箇所を選んで歩いていたが、前日からの降雨により予想以上にぬかるみがひどく、高温の沼状の湯だまり（推定約60℃~80℃）に右足がはまりこんでしまい、右足の付け根近くからつま先にかけて火傷を負った。	42	120109	11	1000 ~ 9999
2017	7	11~12	病院新棟建設工事現場の外部南面地上部の構台上に架台（チャンネルベース）を取り付けている時に、被災者が頭痛と大量の発汗を訴えた。熱中症と診断された。	33	30301	11	1~9
2017	7	15~16	駅東3階改札で乗務中に、気分が悪くなり立っているのも辛い状態となり同僚に代わってもらい冷房の効いた休憩室で休養を取ったが、症状は若干、緩和したものの、身体のだるさと、吐き気があった。病院で熱中症と診断され5日間休業した。なお、当日のホーム上の気温は38度で湿度は50%であった。	28	40101	11	100 ~ 299
2017	7	13~14	当社工場内で熱中症を発症した。押出金型の交換作業及び押出機への油の塗布作業をしていた際に気分が悪くなり、その場に座り込んでしまった。同僚が涼しいところに移動させようとして台車で移動している途中で、息遣いが荒くなり意識も朦朧とし、足に	45	11101	11	10~ 29

			痙攣が起きた。当日は入院した。				
2017	7	15~16	営業所内洗車場にて、車両の室内清掃作業中車内及び屋外が非常に高温多湿な状況であったため、休憩しようとした時、同僚より、急ぎの洗車を指示され水分補給もできず、その後意識が朦朧となり前向きに倒れこむ時に手をつこうとして昏倒した。	26	80409	11	1~9
2017	7	15~16	倉庫内にて出荷作業中、風通しが良くなく扇風機のみが点いていた暑い状況下で、涼しい場所もなかったため休憩も取らずに作業を続けたところ、頭痛が生じ、帰宅後発熱した。熱中症と診断された。	23	80109	11	100 ~ 299
2017	7	16~17	工場の濃縮槽ピット内で、仮設足場組立作業を行っている際、足場上で症状（手足がつった状態）が発症したため、その場で横になり経過を見たが症状が改善されず、診断結果は熱中症で入院して様子を見ることになった。	51	30309	11	1~9
2017	7	11~12	畑作業中本人の体調が悪いようなので、本人の妻に連絡をとり、かけつけてもらう。熱中症の診断を受け点滴治療を行う。その後自宅療養していたが3日後自宅で調子が悪くなり、脱水症と診断される。その後通院点滴を続けていたが良ならず医院から紹介を受け、12日間病院に入院。	75	130201	11	50~ 99
2017	7	15~16	クラブにてゴルフ場キャディとしてプレー帯同中に気分が悪くなり業務終了後に倒れ込んだ。	39	170101	11	30~ 49
2017	7	12~13	応援に行った調理室で、じゃがいもの皮むきをしていてコンボスタのドアを何度か開けたときに、蒸気が顔にあたり、目のまわりを火傷した。	44	10109	11	500 ~ 999
2017	7	13~14	草刈り業務の作業中に気分が悪くなったので休憩を取ったが良くならなかった。（当日は日常の作業と異なり慣れていないため暑さがこたえたように思われる）	50	150103	11	50~ 99
			ゴルフ場キャディとしてプレー帯同中に気分が悪くなり業務終了				100

2017	7	15~16	後に倒れ込んだ。	39	140301	11	~ 299
2017	7	16~17	屋上RFシンダーcon打設及び仕上げ中午後から打設作業を行い、仕上げ作業があるため休憩がとれず午後からも打設作業、仕上げ作業を同時進行で行った。夕方3名に熱中症の症状が出たため、病院に搬送した。その後残った人員で作業続行したが、その後1名嘔吐し熱中症の症状が出た。さらに被災者がけいれんし倒れたため、作業員などで1階に降ろし、病院に救急搬送した。	45	30201	11	1~9
2017	7	15~16	造成工事作業中にコンクリート打設前の型枠を設置していた。各自水分補給を行い短時間の休憩を入れていたが、炎天下で現場に日陰がないため、熱中症になったと思われる。	45	30109	11	1~9
2017	7	11~12	当日監督者他4名建設作業員5名で鉄道沿線の伐採を草刈機を用いて行っていた。昼前に被災者が、肩から背中への攣りを訴えたのでとりあえず休憩させた。点滴を、受け、現在入院している。	41	30104	11	1~9
2017	7	11~12	工場内の小巻現場と殺菌槽付近（気温27.5度湿度70%）で、半そで、長ズボン、長靴、帽子、マスクで小巻商品のカゴ取り機の不具合のため、手での作業がいつもより煩雑になっており、その作業を続けていたところ、頭がボーっとし、立つのも辛くなり、頭痛もしてきたので早退した。自宅で静養していたが、治らなかった。	42	10103	11	50~ 99
2017	7	14~15	本件は、マンション大規模修繕工事現場において、仮設足場内（屋外）で解体作業をしていたところ、職長が現場監督へ「しんどい」等の体調不良を訴えた。熱中症と診断されたもの。	45	30209	11	1~9
2017	7	18~19	出張先で、社用車にて自社店舗の巡回を行っている時に、店のバックヤードで体調が悪くなり、めまい、吐き気などの症状で立ち上がることが出来なくなり、熱中症を発症した。翌月心筋梗塞・狭心症を発症した。	45	80209	11	1~9
			作業現場で墓石の工事中、高温多湿の中での作業のため脱水症状				

2017	7	11~12	となり、めまい、吐き気等が起きた。	64	30199	11	1~9
2017	7	13~14	午後の休憩後、休憩所から30m程度離れた自社車両に行った。エンジンがかからず、修理中に手が震えだし、口からアワを吹いて倒れた（警備員談）。当時の気温は35℃、朝から作業を開始し、昼までの作業、主にバックホウを操作し足場材の移動の作業を行っていた。午前中に約30分程度休憩はとっていた。救急車により病院に搬送され、医者より熱中症と伝えられた。	34	30107	11	10~ 29
2017	7	15~16	仕事中に嘔気及び手足背中がつる等の症状があった。	38	30199	11	30~ 49
2017	7	9~10	工場内にてS8199番船先行ブロックにて作業中にBOXに入りパイプ仮付けしている時に、箱の中で被災者が倒れていた。	21	11501	11	1~9
2017	7	9~10	下刈作業中気分が悪くなり自分で下山する。診察の結果、熱中症の疑いで点滴治療を行い、回復し帰宅する。	38	60209	11	1~9
2017	7	9~10	第2工場作業場内にて、作業場内が暑くて気分が悪く、頭痛がしていた。熱中症と診断された。作業場内の気温が33℃と高く、他の職員も同様に具合が悪くなる者もいた。会社が8日後に、エアコンを増設して作業場環境は改善された。	60	10102	11	100 ~ 299
2017	7	15~16	外部足場で西面2階部分で窓廻りのコーキング作業中に気分が悪くなり、本人が自力で2階のエレベーターホールに移動した。そこで意識がなくなった。	60	30309	11	1~9
2017	7	10~11	業用水供給対策工事に伴う、水中ポンプの設置作業において、被災者（運転手）はクレーンによるポンプの据換え作業の無線合図を行っていたところ、急にケイレンを起こし、座り込んだため、直ちに体の冷却処置を行った。	45	30107	11	30~ 49
2017	7	15~16	管理員業務における日常清掃（拭き・掃き掃除）実施中、9階の外部階段B踊り場にて、熱中症により意識を失い倒れた。掃除に出て戻ってこない事を不審に思ったもう1名の管理員が探し回り、意	66	150101	11	50~ 99

			識不明で倒れているところを発見した。				
2017	7	15~16	得意先にて荷物を納品し、トラックに戻りそのまま意識を失う。 得意先の事務員が異変に気づき救急車を呼び、入院した。熱中症と思われる。	59	10602	11	10~ 29
2017	7	9~10	契約先にて交通誘導業務に従事。同僚警備員より当職宛に連絡が入り、当該警備員の動悸が治まらないとの申し出を受け、日陰にて休息を取っているとの内容であった。	64	170201	11	50~ 99
2017	7	11~12	当社工場内にて、溶接作業の途中で水分補給をしていたところ、気分が悪くなったため、冷房の効いたところで休憩していたが、急に、頭痛、吐き気、指のしびれを起こし、動けなくなった。熱中症と診断された。	23	11301	11	10~ 29
2017	7	10~11	デイサービスセンター新築工事現場にて、屋外（屋根なし）で木造平屋家屋の組み立て作業を行っている時に、めまい、吐き気、耳鳴り等を発症した。	62	30201	11	1~9
2017	7	16~17	工場内で業務用扇風機1台を設置し1名で自動車部品のバックボードを段ボール箱につめていた。急な気温上昇と暑さがキビシク なった事により作業中に熱中症になった。※当工場内、作業者全員には、特に作業場へ「水」等の持ち込みを指示し、体調の変化があれば「声出し」にて休憩を取ってもらっている。	66	10805	11	30~ 49
2017	7	16~17	自転車で夕刊配達中に熱中症で倒れた。倒れた際、顔、腕を負傷した。	65	80205	11	30~ 49
2017	7	10~11	体調不良で車内で休息したが、回復せず、本人が希望したため、同行していた別の社員が救急車を要請し、入院した。	56	30199	11	10~ 29
2017	7	14~15	荷物を載せた後、走行するトラックの助手席に同乗中、大量の汗をかき具合が悪くなった。	56	40301	11	10~ 29
2017	7	2~3	積込作業中、ラーメンを積み込んでいたが体が痛くなり、呼吸も荒くなった。熱中症と診断された。尚、水分は充分補給してい	53	40301	11	30~ 49

			た。				
2017	7	14~15	運送倉庫内家具の荷をトラックに積み込み作業中に具合が悪くなり水分を嘔吐した。冷房の部屋で休ませるも回復せず。熱中症と診断された。	64	40301	11	10~ 29
2017	7	11~12	本船船側作業（玉掛け）を行っていたが、頭痛を発症し別作業（ワイヤーの調達）後に再度本船船側作業（玉掛け）を再開した。しかし、再度頭痛が激しくなったので横になり、回復したので帰宅した。翌日、翌々日は通常勤務を行ったがさらに翌日午前から頭痛が再発したため、病院で血液検査をした結果CPKの数値が高く、入院した。	54	50202	11	50~ 99
2017	7	16~17	工業第2ドック、LSD-42（船名）のタンク6-50-1w（番地）において火気監視を行っていた。夕方、立ち上がろうとしたところ、力が入らず立ち上がることができなかつたため、両手を抱えられて冷たい空気に当たって休憩した。およそ30分後にバイクで自宅に帰り、食事もせず就寝した。翌午前中意識がはっきりせず、救急搬送され、熱中症と診断された。	73	170201	11	50~ 99
2017	7	5~6	陶磁器製造所の焼成炉工場内で製品の積載作業中に、高温の環境にいたため熱中症の症状が発生した。	29	10903	11	10~ 29
2017	7	8~9	センターで早朝より荷卸開始。途中休憩しながら作業をしていたが、積み荷の半分位を卸した頃に気分が悪くなった。荷卸開始より4時間後事務所へ連絡し、他の業者へ荷卸しを頼んだ。およそ50分後荷卸が完了した。約50分走行し、2時間30分位休憩後、事務所に到着した。事務所到着より1時間半後に受診した。	64	40301	11	10~ 29
2017	7	15~16	事業所より、同僚が運転する乗用車にて帰宅中、被災者の体が揺れだし、手元も震えだしたため、救急車を手配した。	39	30301	11	1~9
2017	7	10~11	ハーフラウンドを終え、体調不良を訴えキャディ控室に戻る。身体を水で冷やすなかで手足に痙攣が始まり治まらなかった。平均気温29.2℃、最高気温33.0℃、最低気温26.2℃、湿度84%	63	140301	11	100 ~ 299

2017	7	10~11	この日は朝から勤務を開始し、輸出用タイヤのコンテナ詰め作業に従事していた。勤務開始2時間後に10分間の休憩をとった後、再び持ち場に戻ってコンテナ詰めをしていたが、気分が悪くなり座り込んだところ突然意識を失い、熱中症と診断された。	32	40309	11	10~ 29
2017	7	15~16	午後より体がきつくなり嘔吐と下痢の症状がでた。休憩室に戻るとすぐに手足が攣れ始めたため、氷で各部を冷やし、経口補水液を飲ませる等をしたが、様態が回復せず、その日は入院した。翌日の検査で熱中症と診断された。	44	80409	11	10~ 29
2017	7	15~ 16	倉庫構内にて、荷物の積み込み直後気分が悪くなり、腕がつった状態になり、水道の水をかぶったが、その後足もつった状態で動けなくなり、水等で冷やしてもらっても回復しなかった。	48	40301	11	50~ 99
2017	7	14~ 15	キャディ業務にて昼休憩後、午後キャディ業務につき途中コース売店付近で最初の足がつるも直ぐに回復したため業務を続行した。更にフェアウェイにて激しくつるも数分の簡易治療にて業務を継続した。上記2回時には、マスター室への連絡は行ってない。フェアウェイ右側入口に至った際に再度激しく足がつり、腰を芝面に下ろしたところ、大腿や上腕他、全身に軽いけいれんを伴う激痛を発症し、マスター室へ救助を求めた。初見で、脱水症状が著しいと判断し、救急隊による救急治療ならびに救急搬送を依頼した。	22	140301	90	100 ~ 299
2017	7	12~ 13	揚げ物に使用した油が入った寸胴（約18kg）を運搬カートにのせる作業中、足が滑り転倒し、寸胴からこぼれた油が腕や顔にかかり、負傷したものである。フライヤー付近であることと、グリストラップの蓋が金属製のため、床が滑りやすくなっていた。	60	80209	11	50~ 99
2017	7	20~ 21	当社資材置場において、炎天下、昼過ぎから敷地内で除草剤を撒く作業をしていた。帰宅後、夜に全身の筋肉のこわばりが生じ、一向に改善しないため翌日通院したところ、そのまま緊急入院となった。	47	30209	11	10~ 29

2017	7	11~ 12	海外出張中、客先工場でインゴット作成用の残材溶解炉ポットに仕切り板を入れた際、溶湯が小爆発し、亜鉛が顔や手にかかり火傷をした。	35	11209	11	50~ 99
2017	7	9~ 10	会社の宿舎にて、壁の補修や周辺の草取りを行っていた。作業中に調子が悪くなったので、仕事を止め病院へ行ったところ、検査の結果、熱中症で入院加療が必要となった。	69	30209	11	10~ 29
2017	7	15~ 16	取引先において荷積み作業中、嘔吐し、熱中症の症状を訴えたため、病院へ運んだ。	30	40301	11	10~ 29
2017	7	10~ 11	負傷者は、熱処理真空炉のポンプオイルをエアコンのない屋内で交換していたところ、脱力と関節の痛みを感じたので中断し、休息をとった。その後、多少回復したので定時まで軽易な作業をし、帰宅後に受診し、熱中症と診断された。	39	11702	90	30~ 49
2017	7	13~ 14	工場にて自動車整備作業時、気持ちが悪くなり、3回嘔吐し、休憩していたが改善しないため病院にて受診し帰宅したが、夜になっても気持ちが悪いのが続くため、緊急で病院を受診し入院した。	22	80202	11	10~ 29
2017	7	11~ 12	工場で植栽の剪定作業を行っている際、脚立の中段から落下し、地面に腰を強打して、腰骨にひびが入った。	47	30302	11	1~9
2017	7	16~ 17	鋼材スリッター補助の作業中、熱中症でおう吐し、フラフラして救急車で病院へ搬送された。	45	80109	11	1~9
2017	7	21~ 22	集荷をするため停車し店内へ向かう際、下車後間もなく意識を失い倒れ、通行人に介抱してもらい救急搬送となった。診断の結果、熱中症と思われ、脱水症状が酷く、腎臓に影響があるため即日入院となり、炎症数値が下がるまで数日間入院安静となった。	43	40301	11	100 ~ 299
2017	7	16~ 17	配達を終えて荷台の整理をしていたところ、意識を喪失し、荷台から落下した。10分後程経過した時点で、警察官に介抱され意識が戻り、救急車で病院に搬送され、熱中症の症状からの意識喪失、顔面裂傷、骨折との診断を受けた。	47	40301	11	50~ 99

2017	7	13～ 14	清掃作業現場で、車両誘導業務に従事中、休憩していたときにめまいと吐き気をもよおした。自己判断により、当日は終業時刻まで勤務し帰社したとき、めまいがして意識が朦朧とすることを会社に報告した。	28	170201	11	100 ～ 299
2017	7	8～9	マンション清掃中、管理室にて熱中症により意識を喪失し、医療機関に救急搬送された。強度の意識喪失状態の低下と、強度の泥状下痢により入院治療となった。	68	150101	11	1000 ～ 9999
2017	7	15～ 16	校内解体工事現場前の屋外道路で交通誘導整備中、当日の暑さのために、突然嘔吐し、病院へ救急搬送された。当日は晴れで、気温は33℃であった。	53	170201	11	30～ 49
2017	7	18～ 19	拠点の駐車場内にて、外出先より戻り、レンタル商品返却のため確認作業をしていたとき、意識障害により倒れ、職員が発見し、意識混濁のため救急搬送された。脱水が原因による意識障害と診断された。	44	130201	90	30～ 49
2017	7	14～ 15	トラック運転者が、集荷先1F倉庫で荷扱い中に気分が悪くなり、座って休んでいた。少し気分も落ちついたので立ち上がったとき、くらくらと目が回り倒れ、顎を打ち裂傷した。	52	40301	11	100 ～ 299
2017	7	11～ 12	お客様宅で活動中、被災者の様子がおかしいと感じたお客様から、仕事を切り上げて帰るようにと言われ、被災者が事務所へ連絡し、次の活動は勤務するが午後は休みたい旨を申し出た。心配した職員が、次の活動は休むようにと被災者の携帯へ連絡したがつながらなかった。その後、次のお客様宅へ向かう途中で被災者が倒れているのを職員が発見し、救急搬送した。	75	130201	90	100 ～ 299
2017	7	15～ 16	列車乗務中、駅発車時に、車掌非常スイッチ操作によりセクション停止禁止区域に停止した。既定の対処を行うため10分ほど炎天下の中で処置を行った。その後、降車直後に身体が痺れてホームに跪き、そのまま倒れ込み、自力で立ち上がれなかった。処置時の気温は34度、湿度は52%であった。	38	40101	11	100 ～ 299

2017	7	15~ 16	<p>駅東口のタクシー待機場所にて、客待ちのため車中で待機を開始した。車中ではエアコン稼働させ、適度にスポーツドリンクで水分補給していた。車内に置いてあった傘をトランクルームに収納するため、外に出て、後方のトランクルームへ移動したところ、傘を収納したと同時に意識を失い倒れた。当時は、午前中に雨が降り、午後から晴れたため、湿度が高く、非常に蒸し暑かった。服装は、長袖のワイシャツにネクタイ、スラックスを着用していた。被災者は、前日より風邪気味で多少の倦怠感があったが、熱はなく、食欲もあったためいつも通り出勤していた。</p>	53	40201	11	10~ 29
2017	7	9~ 10	<p>ビニールハウス内での野菜収穫作業後、自ら体調不良を訴え、冷房の効いた部屋で休憩をとっていたが、容態が悪化し、嘔吐、意識がもうろうとなった。その後、歩行困難や、職員の呼びかけにもあまり応じなくなったため、職員の車にて病院へ搬送し診察を受けた。</p>	47	130201	11	30~ 49
2017	7	14~ 15	<p>昼食休憩後、敷地内に設置されたテント倉庫において、梱包作業を行っていた。1時間ほど作業を行なったところで気分が悪くなってきたので、現場にある椅子に腰かけて30分ほど休憩をとった。その後、会社内の休憩室に移動し、横になって安静にしていたが状態は良ならず、嘔吐を繰り返すようになった。</p>	66	40301	11	30~ 49
2017	7	11~ 12	<p>店舗厨房内にて、ガスコンロを使用して鍋に入ったカレーソースを仕込み、洗い場にて食器の洗い物をしていた。その際、厨房内に換気扇が1つしかなく、炊飯ジャーの蒸気やフライヤーの熱気の影響で、厨房内の温度は大変高い状況であった。さらに、入社したばかりで緊張していたこともあり、水分補給を怠ってしまったため、倦怠感と筋痛の症状が出て救急車で搬送された。</p>	57	170101	11	300 ~ 499
		11~	<p>店舗厨房内にて、ガスコンロを使用して鍋に入ったカレーソースを仕込み、洗い場にて食器の洗い物をしていた。その際、厨房内に換気扇が1つしかなく、炊飯ジャーの蒸気やフライヤーの熱気の影響で、厨房内の温度は大変高い状況であった。さらに、入社したばかりで緊張していたこともあり、水分補給を怠ってしまったため、倦怠感と筋痛の症状が出て救急車で搬送された。</p>				

2017	7	12	影響で、厨房内の温度は大変高い状況であった。さらに、入社したばかりで緊張していたこともあり、水分補給を怠ってしまったため、倦怠感と筋痛の症状が出て救急車で搬送された。	57	140201	11	1～9
2017	7	13～ 14	工場にてピッキング作業中、暑い中での作業だったため息が苦しくなり、休憩室で休んでいたところ、過呼吸・足の痺れ・顔面の麻痺の症状が出て、救急車で搬送された。	57	10409	11	10～ 29
2017	7	2～3	チップ交換作業中、腕に力が入らないとチームリーダーに連絡し、冷房の効いた保全詰所で休ませ、組長に連絡した。組長から工長へ連絡し、経口補水液と冷たいタオル10枚を持参した。経口補水液をコップ半分飲み、脇の下等を冷やしたが、その後、両腕がつり始めた。その際、受け答えは、はっきりしていた。しばらくして、両腕に加え、両足もつり始めたため、工場内の救急へ連絡し、症状が悪くなってきているため救急へ連絡し、病院へ搬送した。	47	11502	11	1000 ～ 9999
2017	7	15～ 16	駐車場整理の交通誘導業務中に、気分が悪くなり、意識がなくなったため救急車で搬送された。	59	170201	11	50～ 99
2017	7	15～ 16	会計室廃棄物品倉庫内において、廃棄物品の搬入確認作業を行っていたとき、屋外の倉庫であり、冷房設備がないため、気温の上昇とともに室温が上昇し、途中で水分補給もしなかったため、熱中症の症状となった。	43	120109	11	100 ～ 299
2017	7	15～ 16	工場内で、長さ4,000mm・幅45mm・厚さ18mmの杉木材製品を、長さ1,000mmにカット作業中、体調不良となり、休憩所にて休んでいたが回復しなかったため受診した。	77	10401	11	1～9
2017	7	14～ 15	作業場で販促物を作成中、気分が悪くなったため早退しようとしたところ、呼吸が荒くなり倒れた。室内ではあるが、冷風機のみで、室温が高くなっていた。	53	170209	11	50～ 99
			ゴルフコースでの作業中（ホールカップ切）、足に痙攣を発症し				

2017	7	16～ 17	そうに感じたため、コース管理棟に戻り、上司に報告して休憩をとった。その後、本人の判断により自動車で帰宅したが、その途中で気分が悪くなり、痙攣の発症と嘔吐があった。	63	140301	11	50～ 99
2017	7	20～ 21	ツアー添乗中、暑い中で走り回ったりしていたため、具合が悪くなった。お客様を見送るため、一時下車のつもりで駅で下車したとき、発熱および意識がもうろうとしていたため、意識障害を起こし、緊急搬送された。脳に異常はなく、暑さとストレスによる意識障害と診断された。	41	170209	11	100 ～ 299
2017	7	18～ 19	3直勤務で出勤し、主に鋳込み監視を交代で行っていたが、その勤務の間は特別な作業やトラブルはなかった。しかし、その後しばらくの間、休みたい旨の連絡を受けたため、面談を行ったところ、3直勤務後に体調が悪くなり熱が出てきたとのことである。面談時に病院に行くことを勧め、受診した結果、熱中症と診断された。	18	11001	11	100 ～ 299
2017	7	13～ 14	生コンクリート納入の現場内で、ミキサー車の誘導作業時に、熱中症の症状で病院に搬送された。	57	10901	11	1～9
2017	7	22～ 23	揚網作業中、高温多湿の気象状況下であったため、熱中症と疑われる症状が現れた。	42	70201	11	30～ 49
2017	7	1～2	当社2F製造フライヤー室内において、フライヤーの取り出し作業をしていたところ、室温40度、湿度80度の中での作業が続いたためか、次第に疲労とともに体調が悪化し、頭痛、めまい、倦怠感等の症状が現れた。そのため、立ち仕事が困難となり早退した。	79	10109	11	500 ～ 999
2017	7	20～ 21	営業所構内にて、車両積載車（7台積トレーラー）へ、自動車の積み込み作業を終えた後、全身が攣るような症状がでたため、病院へ行ったところ、熱中症と診断された。	41	40301	11	100 ～ 299
2017	7	20～ 21	屋外の交通誘導に従事していた際、一旦帰宅した後に体調が悪くなり、病院に急行した。	52	170201	11	50～ 99

2017	7	16~ 17	ヨーグルトケーサー室で、箱詰監視とスタッカーで段積みされたケースをパレットへ積み付ける作業に従事し、原料・包材の受入作業を行っていた。包材の受入をしていたとき、息苦しさや汗も止まらなくなり、両足の痙攣も酷くなり、本人が生産管理室へ戻って来て発覚した。当時、水分補給等は適宜行っていたが、職場に空調設備はなかった。	39	10101	11	50~ 99
2017	7	14~ 15	炎天下の屋外で、サイドポンプ修理の緊急作業を1時間程行ったあと、一旦水分補給等の休憩をとり、作業を再開したところ、本人が体調不良を訴えたため病院に搬送した。	49	10901	11	30~ 49
2017	7	7~8	高温多湿な屋外において、飛込み営業をしていたため、熱中症になった。飛込み営業をしていたのは真夏の日中で、翌日朝の起床時に体調の異変に気付いた。	53	90103	11	50~ 99
2017	7	16~ 17	海岸で、船から排出される廃油を船底にホースを下ろし抜き取る作業を行った。作業終了後に車に使用済のホースを巻いたあと、汗で濡れた作業服を着替えようとしたが、既に全身に力が入らず、こわばりと震えが来たため、一緒に作業をしていた作業員が救急車の手配をし、病院に搬送され、熱中症と診断された。	49	150102	11	30~ 49
2017	7	16~ 17	建築現場の建築作業の床掘箇所において、均しコンクリート上で墨出しを行っていた。休憩及び昼休み、そしてそれ以外でも随時水分・塩分補給を行っていたが、気分が悪くなり座って休憩し、そして日陰で体を冷やす処置を行ったが、症状が悪化し病院へ搬送された。被災者は、元々熱中症になり易く、事業主の判断で前月途中から炎天下を避けて屋根付きの加工場で作業させていたが、暑さも若干和らいできていたので、久しぶりに現場へ復帰した初日であったため、体が順応できなかったものと思われる。	59	30201	11	1~9
2017	7	11~	船尾にて、ノンスリップ（砂まき）作業を行っていた。作業後、船から降り、作業場にて扇風機で体を冷やしたあと、その場から離れ戻ってきた際にふらついて転倒し、右側頭部を渡りの筋交い	69	11501	11	10~

		12	で打撲負傷し出血した。ふらつきの原因として、水分・塩分不足による熱中症と持病（糖尿病）の症状が考えられる。					29
2017	7	19～ 20	炎天下、市内道路上にて通信線工事の警備実施後、自宅に帰ってから容体が急変し、救急搬送された。	58	170201	11		30～ 49
2017	7	14～ 15	午前中は当社工場内で通常の仕事をし、午後からは炎天下で、工場外の草刈りした草をまとめフォークリフトで焼却場に持っていく作業をし、しばらくして交代して草刈りを始めた。その後10分位で気分が悪くなり、事務所へ戻り、給水場で飲み物を飲もうとしたところ、容態が悪くなり、熱痙攣らしい症状を起こして倒れ、救急車で病院へ運ばれた。	42	10804	11		30～ 49
2017	7	22～ 23	体調が思わしくなかったが、水分を取り休憩しながら就業していた。その後、歩行も難しいまでの体調不良となったため受診し、熱中症の診断を受けた。	51	40301	11		100 ～ 299
2017	7	14～ 15	発掘調査現場で、日除け設備の移動作業をしているとき、立ちくらみの様な症状があったため、その場で横にならせたが熱中症の疑いもあるため救急へ連絡した。	75	30199	11		30～ 49
2017	9	19～ 20	レストラン店舗内、パントリーにて、お客様への注文品が重なった為、左手にそば腕を持ち、右手でラーメンを作って、トレイに載せようとした際、そば腕が傾いてこぼれ、左手にかかり、手首に火傷を負った。	20	140201	11		30～ 49
2017	9	11～ 12	事業所内の棚の前で立ち作業を行っている時に、棚の下の段付近に置いている業務用のポットが倒れた、ポットの上蓋が外れ、中に入っていた沸かした直後のお茶が全部ザバツと両足にかかって火傷した。すぐに水で冷やしたが、足の甲の痛みが強く、右足の指全部と左足の親指に水ぶくれができた。	47	140201	11		10～ 29
			調節操作を行う為、現地に向けて屋外を歩行中、80℃の熱水が流れるダクト（幅500mm×深さ600mm、水深200mm）の鉄板渡り					

2017	9	3~4	板から、右横800mmを並行するケーブルダクト上へ上がろうとした。頭上は仮設足場により照明が遮られ、又、懐中電灯を持っていたが点灯していなかったので暗く、ダクト開口部が黒塗りの鉄板に見えたため、そのまま進み熱水ダクトへ足から転落し、足首を火傷した。	21	10802	11	~ 999
2017	9	16~ 17	納入した製缶品の手直しのため、納入先現場で作業を行い、帰社後、片付けを行っていたところ、体調不良となり、病院で診察を受け、熱中症と診断された。	36	11209	11	30~ 49
2017	10	11~ 12	被災労働者が店内の厨房にてフレンチトーストを調理中、通路を挟んで労働者の背後の棚にスープの入った保温調理器が置いてあった。被災労働者と保温調理器の間の通路を、タオルを腰に掛けた被災労働者とは別の労働者が通ったとき、被災労働者とは別の労働者のタオルのわの部分保温調理器のふたの取っ手部分に引っ掛かり、保温調理器が床に落ちた。その際、こぼれたスープが労働者の左足ひざ裏下にかかり、火傷した。	28	140201	11	1~9
2017	11	9~ 10	工場の作業現場で、製品を入れたプラスチック箱（550×550×640cm、約2kg）を1段、2段、3段と積み上げ作業をしている時に、突然背中に痛みを感じたので、病院に行き診察してもらった（レントゲン写真）ら、圧迫骨折をしていた。	40	130201	11	10~ 29
2017	11	11~ 12	厨房において、沸騰したスープカップを入れたホテルパンを、デイサービス用の保温庫に入れる際、とても熱くなっていたホテルパンの横の部分を左手人指し指・中指・薬指で触れてしまい火傷をした。	33	130201	11	100 ~ 299
2017	11	8~9	客先挨拶および現場確認のために現場へと向かう。ホテル駐車場に車を止め、お客様に挨拶しに行った。挨拶後、搬入用スペースに作業員がおり、そこに向かおうと傾斜になっている路面を歩いていたら、路面が凍結しており、足を滑らせてしまい、背中から横に捻った状態で転倒し、肋骨を骨折した。	49	30203	2	300 ~ 499

2017	11	5~6	退社後、敷地内駐車場にて乗務する際白線上で、凍結のため足を滑らせ右膝を強打したものである。医師の診察によると内出血があり、定期的に血液を抜く必要があり、症状によると半月板損傷の恐れもあり、1~3か月の安静加療が必要。場合によれば手術の可能性も考えられるとの診断を告げられたようである。	54	40301	2	100 ~ 299
2017	11	22~ 23	閉店作業で明太子の缶を汚れが落ちやすいように湯を入れて足元に置いていた。本人が釜を清掃時に誤ってその缶を蹴ってしまい、中の湯が右足甲にかかり火傷した。	19	140201	11	10~ 29
2017	11	18~ 19	店舗営業中、餃子機の鉄板を掃除するために、麺機で沸騰していた熱湯を杓ですくい、鉄板に流し込もうとしたところ、誤って足元に熱湯をこぼしてしまい、履いていた長靴の中へ熱湯が入って、左足の内くるぶし周辺10cm四方の範囲で火傷を負い、病院へ救急搬送した。	15	140201	11	300 ~ 499
2017	11	10~ 11	特別養護老人ホーム本館3館食堂において利用者に提供するお茶を準備している時に、ポットに入っていた湯（約100℃）を茶番の入ったやかんに移す際、ポットの重さで手を滑らせ、左膝から足先にかけて5?入っていた湯のほぼ全部をかぶった。すぐに流水で5分程度冷やしたが痛みが治まらず当日受診した。	69	130201	11	100 ~ 299
2017	12	9~10	店頭の駐車場の融雪用のホースを直す際に、凍っていた路面に上がってしまい滑って転倒し左手を骨折した。	62	80209	2	10~ 29
2017	12	15~16	厨房内にて、ゆで麺機の掃除をする為、麺機から熱湯を放出しようとして麺機の底からホースを排水溝へ入れ、放出中にホースに穴が空いていて熱湯が右足のくるぶしにかかり火傷をした。	36	140201	11	10~ 29
2017	12	15~16	当社第二工場内で同僚と2人で解凍作業中、解凍したエビの入ったステンレス製の籠を引き上げた際、同籠が作業衣であるエプロンに触れめくれ上り、同部から籠に付着した熱湯が右長靴に入ったため、慌てて靴下を脱いだところ、右足甲部の皮膚が剥がれてしまった。	27	10103	11	100 ~ 299

2017	12	11~12	所属事業場厨房内において、ホットコーヒーを作る機械が正しくセットされていなかったため、熱湯の入った部品が熱湯の重さで外れてしまった。その際、当該労働者に熱湯がかかり、火傷を負ったものである。	21	80209	11	50~ 99
2017	12	0~1	本社工場内2号灰絞りで、シュートに詰った高温の灰を除去しようと、ドロスクーラー内に立ち入り作業しようとしたときに、右足が熱くなってきたので一旦外部へ出た。足が熱かったので靴を脱ぎ、靴下も脱いで確認したところ、熱傷を負っていた。	41	11101	11	100 ~ 299
2017	12	15~16	2才馬を出走させるため、パドックから馬場への通路に入ったとき、馬が急に駆けてきて、壁と馬に挟まれて左肩を受傷した。	34	140309	7	1~9
2017	12	21~22	加熱調理室にて、蒸気釜で豆腐をボイルしたあと、豆腐を取り出す作業中に、蒸気釜を少し傾けたところ、思った以上に熱湯が流れてきた。エプロンと長靴を着用していたが、隙間から長靴に熱湯が入り、右足足背（足の甲）を火傷した。	32	10109	11	100 ~ 299
2017	12	7~8	冷凍庫内にて在庫確認等の作業中に、胸が苦しくなったため、その場で携帯電話から救急車を呼びながら冷凍庫外へ出たところ、立ってられなくなり座り込んだ。そこへ第一発見者が来たので、携帯電話を渡して手配を依頼し、救急車で搬送された。	57	80109	11	10~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html